

畜産科学課程 実務経験のある教員等一覧表（五十音順）

No	実務経験のある教員等			職務経歴			科目コード	実務経験関連 授業科目	関連する授業内容
	所属	職名	氏名	時期（期間）	職種	職務内容			
1	環境農学研究部門	特任講師	浅利 裕伸	平成20年6月～平成28年3月	建設コンサルタント	開発等にもなう周辺の自然環境調査および保全対策の検討、野生動物の管理計画策定	425390	野生動物管理学	野生動物の保全および管理
							620060	環境生態学実習Ⅰ	野生動物の調査法
							620070	環境生態学実習Ⅱ	野生動物の調査法
2	獣医学研究部門（3/23追加）	教授	石井 利明	昭和62年4月～平成3年1月	小野薬品工業株式会社	研究員として新薬の研究開発に従事	426930	病態薬理学	企業での新薬開発研究の経験を生かし、病気により乱れた生理機能の正常化を図る薬物療法と、薬物とその標的分子間に存在する相互連関について講義している。
3	獣医学研究部門	助教	伊藤 めぐみ	平成9年4月～平成26年3月	北海道立総合研究機構 畜産試験場	研究職員：乳牛の周産期疾病および感染症の予防に関わる研究	421150	家畜生産と獣医学	道総研勤務時に収集した疾病牛の写真を講義に活用している。
4	人間科学研究部門	講師	岡部 康成	平成13年4月～平成17年3月	特殊法人・日本原子力研究所・社会技術研究システム 業務移管・所属機関の独立行政法人化等により、所管機関・所属機関の変更あり 平成15年4月～平成15年10月1日 特殊法人・科学技術振興事業団・社会技術研究システム 平成15年10月2日～平成17年3月31日 独立行政法人・科学技術振興機構・社会技術研究システム	研究員：安全性拡充のための社会心理学的装置の開発	421320	社会心理学	研究機関での安全・安心に係る社会心理学的装置の研究開発の経験を活かし、ヒューマンエラーや組織的不正を生み出す企業文化、リスクコミュニケーションなど、安全・安心な社会の構築に関連する講義を展開している。
5	獣医学研究部門	教授	川本 恵子	平成3年4月～平成5年9月	杉谷乗馬クラブ動物診療所	感染症の検査・診断業務・診療業務	426820	臨床応用免疫学	家畜の診療、感染症の検査・診断 魚病、エキゾチックの診療、検査、診断
6	畜産フィールド科学センター	教授	木田 克弥	昭和62年1月～平成16年12月	北海道農業共済組合連合会研修所	技術主幹など： 獣医師の卒後教育、獣医新技術の研究開発と現場への普及 (特に、乳牛の代謝プロファイルテスト技術の開発と普及)	610160	家畜生産衛生学	酪農場における乳牛の飼養管理診断・指導の経験を活かし、畜産科学課程の学生に対して、酪農における生産阻害要因の摘発と対策について、現場の生データや画像等を活用した授業を行い、乳牛の遺伝的能力を最大限に引き出す方法(ベストパフォーマンス実現)について講義を行っている。
7	生命・食料科学研究部門	教授	木下 幹朗	平成7年9月～平成10年8月	科学技術振興機構	科学技術特別研究員（厚生労働省国立循環器病センター派遣）：循環器病疾患の発症メカニズムについて、おもに生化学・細胞生物学の手法を用いて解析した。	421180	生物化学	代謝系に関する講義について、上記の時に得られた知見手法を交えて講義をしている。
							425620	食品化学	食品の3次機能（健康機能性）についての講義について、生活習慣病である循環器疾患について上記の職務経験をもとに講義を行っている。
8	生命・食料科学研究部門	准教授	草場 信之	平成9年4月～平成31年3月	北海道農業共済組合連合会 研修所	乳房炎における各種検査、獣医師及び酪農家への乳房炎防除対策の助言	421010	全学農畜産実習	乳房炎防除対策の助言を行ってきた経験を活かし、衛生的搾乳技術を実習において、衛生的搾乳方法を教育する。

No	実務経験のある教員等			職務経験			科目コード	実務経験関連 授業科目	関連する授業内容
	所属	職名	氏名	時期(期間)	職種	職務内容			
9	環境農学研究部門	准教授	熊野 了州	平成17年4月～平成 19年 3月	沖縄県植物防疫協会	研究員, サツマイモ害虫に関する生態学的研究及び防除技術開発	421160	生態学	昆虫の生態学的研究の知見を活かし、生態学における動物の個体群管理に関する講義を展開している。
				平成19年4月～平成27年 3月	琉球産経株式会社		425340	動物生態学	昆虫の生態学的研究の知見を活かし、動物生態学における動物の繁殖や個体群管理、進化に関する講義を展開している。
							425350	害虫管理学	サツマイモ害虫の管理技術の知見を活かし、害虫管理学における防除技術や害虫の個体群管理といった現場で直接的に役立つ講義を展開している。
10	環境農学研究部門	教授	小池 正徳	昭和61年 4月～昭和63年 3月	(株)サカタのタネ 君津育種場 研究員	アブラナ科作物(キャベツ、コカブ、菜っ葉類)の育種学・栽培学・病理学的研究および農家への栽培指導	421010	全学農畜産実習	全学農畜産実習の畑におけるジャガイモおよび野菜栽培に関して、サカタのタネ勤務時代の技術・経験等を参考にして栽培指導を実施している。
							421130	土壌栽培学基礎	土壌栽培学基礎における作物保護学分野(植物病理学・応用昆虫学)の教育に関しては、サカタのタネ研究員時代の経験に基づいた知識を講義の参考としている。
							426570	植物病理学	植物病理学および環境保全型農学の教育に関しては、サカタのタネ研究員時代の経験に基づいた知識を講義の参考としている。
11	環境農学研究部門	助教	小山 耕平	平成11年4月～平成11年12月	農業研修生(大学を1年間休学)	農業研修生として、住み込みで、三重県および熊本県の有機農業を行う農場で働く。(三重県いわん農場、熊本県坂本農場)	421160	生態学	環境に配慮した農畜産業の保全への応用の観点から、生物と環境との関わりについて講述する。
							425330	植物生態学	環境に配慮した農畜産業の保全への応用の観点から、近年の気候変動などの環境問題と植物成長の関連など、植物と環境との関わりについて講述する。
							620060	環境生態学実習Ⅰ	環境に配慮した農畜産業の保全への応用の観点から、植物と環境との関わりについて実習での指導を行う。
							620070	環境生態学実習Ⅱ	環境に配慮した農畜産業の保全への応用の観点から、植物と環境との関わりについて実習での指導を行う。
							620080	農畜産環境リスク管理学	環境に配慮した農畜産業の保全への応用の観点から、生物と環境との関わりについて講述する。
12	人間科学研究部門	講師	斉藤 準	平成 21年 10月～平成 24年 9月	北海道大学 高等教育推進機構	特定専門職員：学生への正課外学修支援および教員への教育支援	351130	物理学概論	授業外学習の教材開発や学生サポート、授業内学習のアクティブラーニング化などに実務経験を活用している。
							352040	物理学実験	
							421220	基礎物理学	
13	環境農学研究部門	助教	實友 玲奈	平成 22年 4月～平成 23年 5月	カルビーポテト株式会社	馬鈴薯研究所 品種開発チーム	426520	持続型農学実習	パレイシヨの栽培と育種
14	獣医学研究部門	教授	高橋 英二	昭和61年4月～平成30年4月	十勝農業共済組合 獣医師	産業動物の診療業務と衛生管理指導業務	426870	応用動物衛生学	疾病予防のための衛生管理指導業務を行ってきた経験を活かし、家畜の衛生管理について経験談を交えた講義を展開している。

No	実務経験のある教員等			職務経験			科目コード	実務経験関連 授業科目	関連する授業内容
	所属	職名	氏名	時期(期間)	職種	職務内容			
15	生命・食料科学研究部門	教授	西田 武弘	昭和63年 4月～平成20年 3月	農林水産省畜産試験場、畜産草地研究所、国際農林水産業研究センター	黒毛和種牛の胎子を妊娠したホルスタイン種乳牛の、分娩前60日間の妊娠に要する代謝エネルギー量を求めた。茶系飲料残渣をサイレージにして牛に給与し、その飼料価値を検討した。3年間タイ王国に駐在。インドシナ半島諸国で利用可能な飼料の実態を明らかにし(飼料資源データベース)、現地の牛への適正給与水準を明らかにし、英語版飼養標準を作成	421020	農畜産科学概論Ⅰ(畜産学)	畜産草地研究所でのウシ飼養管理に関する研究を担当していた経験を活かし、これらの講義では、家畜の飼料、栄養素の知識、消化管の構造、吸収機構、体内での代謝、消化率、その測定手法、代謝病等について、現場での効率性、実用性を重視した講義を展開している。
							421100	家畜家禽論	
							421360	共通教育総合Ⅰ(家畜と環境問題)	
							425020	家畜栄養学Ⅰ	
							427115	国際農畜産開発論	国際農林水産業研究センターでの海外赴任および現地での大学教員、タイ農水省との共同研究の経験を活かし、国際農畜産開発論では、熱帯地域特有の畜産業の特色や注意すべき点についてや、海外での業務遂行の心構えを重視した講義を展開している。
							610060	家畜生産科学実習Ⅰ	飼料の分析や家畜を用いた実習において、畜産草地研究所でのウシ飼養管理に関する研究を担当していた経験を活かし、学生実習として展開している。
							610070	家畜生産科学実習Ⅳ	
610180	家畜栄養学Ⅱ	畜産草地研究所でのウシ飼養管理に関する研究を担当していた経験を活かし、これらの講義では、家畜の飼料、栄養素の知識、消化管の構造、吸収機構、体内での代謝、消化率、その測定手法、代謝病等について、現場での効率性、実用性を重視した講義を展開している。							
16	生命・食料科学研究部門	准教授	萩谷 功一	平成 5年 4月～平成10年12月	㈱十勝家畜人工授精所	データ分析、商品パンフレット作成	610120	家畜育種学演習	乳牛の遺伝的能力評価およびそれらの情報を利用して経験を活かし、家畜育種学Ⅱおよび家畜育種学演習において、国内外で応用されている遺伝的能力評価技術について講義、演習として展開している。また、乳牛改良団体で得た経験に基づき、牛群改良のための乳牛の遺伝的能力評価の活用法について講義している。
				平成13年 4月～平成15年12月	(一社)日本ホルスタイン登録協会北海道支局	技師：システム開発、データ分析			
				平成16年 1月～平成23年 3月	(独)家畜改良センター	専門役：家畜の遺伝的能力評価	610190	家畜育種学Ⅱ	
				平成23年 4月～平成26年12月	農研機構北海道農業研究センター	主任研究員：乳牛の遺伝的改良に関する研究			
17	人間科学研究部門	准教授	平舘 善明	平成 10年 9月～平成 16年 3月	東京都立中学校および私立中学・高等学校	中学校技術・家庭科および高校情報科の非常勤講師を担当	362060	教育原理	教員実務経験にもとづき、現場の実情を反映させながら、授業を構成している。
18	獣医学研究部門	准教授	廣井 豊子	平成2年4月～平成 4年2月	製薬系民間企業 研究所	抗菌薬の開発、食品に含まれる自然毒の高感度検出キットの開発に従事	426910	獣医公衆衛生学	実務経験に基づいて、食品衛生上、あるいは、公衆衛生上問題となる人の疾患について、講義、実習を行う
				平成12年10月～平成 13年9月	(米国) 政府系研究機関	公衆衛生問題となる人の疾患(感染症や生活習慣病)の機序について基礎並びに応用研究に従事			
				平成15年1月～平成 18年12月					
				平成22年9月～平成 24年8月					
19	—	理事	福島 道広	昭和60年5月～昭和64年9月	株式会社ズコーシャ	研究員：環境分析、動植物からの機能性成分抽出技術の開発	425660	食品栄養学	食品栄養学および栄養機能化学の機能性成分中で、各種植物に含まれる機能性成分について講義を行い、食と健康についてその重要性を講義で展開している。
							630190	栄養機能化学	

No	実務経験のある教員等			職務経験			科目コード	実務経験関連 授業科目	関連する授業内容
	所属	職名	氏名	時期(期間)	職種	職務内容			
20	環境農学研究部門	准教授	宮竹 史仁	平成15年 4月～平成16年 3月	独立行政法人食品総合研究所	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所	426380	畜産機械施設学	実際の畜産農家等での畜産機械の開発・普及の経験を活かし、畜産機械施設学では、畜産農家において実際に使用されている機械や施設について実践的な講義を行っている。また、それらの機械・設備の特性や現場での問題点など、現場経験が無いと分からないことなども踏まえて、実学を重視した講義を展開している。
				平成18年 10月～平成20年 11月	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所	研究員：畜産廃棄物の資源化機械システムなどに関する研究開発			
21	環境農学研究部門	准教授	山内 健生	平成19年 4月～平成26年 3月	富山県衛生研究所	研究員：衛生害虫の調査、食品混入害虫等の検査	425320	環境昆虫学	富山県衛生研究所での害虫の調査及び混入昆虫検査の経験を活かし、昆虫の多様性や畜産学・衛生動物学との関連性について、現場での経験を重視した講義を展開している。
				平成26年 4月～平成31年 3月	兵庫県立人と自然の博物館	主任研究員：昆虫標本を用いた教育普及活動、昆虫標本の収集・整理・保存	620060	環境生態学実習Ⅰ	標本を用いた昆虫の分類の実習において、富山県衛生研究所での混入昆虫検査を担当・博物館での昆虫標本整理を担当していた経験を活かし、学生実習を展開している。
22	生命・食料科学研究部門	助教	山下 慎司	平成20年 4月～平成26年3月	福島県 研究員	短大での食品科学講義および加工実習 社会人への専門講義および実習（醸造） 食品の成分分析・機能性分析 食品の放射性物質分析	421210	分析化学	短大での食品科学講義および加工実習 社会人への専門講義および実習（醸造） 食品の成分分析・機能性分析 食品の放射性物質分析
							425620	食品化学	
							630010	卒業研究ゼミナールⅠ	
							630020	卒業研究ゼミナールⅡ	
							630030	卒業研究ゼミナールⅢ	
							630040	卒業研究ゼミナールⅣ	
							630060	食品科学基礎実習Ⅰ	
							630070	食品科学基礎実習Ⅱ	
630080	食品科学基礎実習Ⅲ								
23	人間科学研究部門	講師	ロメロ ホンノ イサミ	平成 24 年 4 月～平成 24 年 7 月	日本外務省研究省	中南米書国に派遣される若手の外交官にラテンアメリカ政治の非常勤講師を担当。	361100	政治学	外務省では、ラテンアメリカ政治の基盤である大統領制と民主主義の仕組みを教えた。この簡単バージョンを学部学生に教えている
24	人間科学研究部門	教授	渡邊 芳之	平成 2 年 4 月～平成 3 年 3 月	長野県松本児童相談所	心理判定員（非常勤）として心理検査の実施、判定に従事した。	362070	教育心理学	「教育評価」の単元、「個性の評価」のセッションで各種心理検査の原理、実施法、判定法について講義している。
				平成 3 年 4 月～平成 3 年 1 0 月	心理検査会社「日本・精神技術研究所」社員（常勤）	内田クレベリン検査その他の心理検査の判定業務に従事した			
25	生命・食料科学研究部門	講師	渡部 浩之	平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	医療法人社団 神谷レディースクリニック	胚培養士：体外受精、顕微授精、精子・卵子・受精卵の凍結保存、受精卵の培養	610100	家畜生産科学実習Ⅴ	胚培養士としての勤務経験を活かし、体外受精、精子・受精卵の凍結保存、受精卵の培養を体験することによって、受精メカニズムや繁殖生理に関する理解を深められるような実習を展開する。
							610200	家畜繁殖学Ⅱ（生殖工学）	胚培養士としての勤務経験を活かし、生殖工学の重要性、問題点、今後の展望等について、生命倫理の観点を含めた講義を展開する。